

## 令和7年度 協議会総会を開催（5月21日）



5月21日13時30分から、ひたちなかテクノセンター研修ホールにて令和7年度いばらき量子線利活用協議会の総会を開催しました。

冒頭、須賀会長（NAT代表取締役社長）が「世界各地での国家対立、気候変動、自然災害など様々な問題が起こる中、特に第二次トランプ政権の政策運営が世界に大きく影響を与えるものと考えられる。また、労働者不足に伴う経済の減速が進行するなど、我々地方の中小企業を取り巻く環境は不透明な状況が続いている。このような中、引き続きJ-PARC利用促進に係る支援やJ-PARC周辺機器の開発に係る支援、量子線技術を活用した新事業・新ビジネスへの参入支援などに取り組み、会員の企業活動の更なる発展に繋がる協議会活動を推進したい」と力強く開会挨拶。

さらに、県科学技術振興課 若林課長から「今年度もJAEA、QSTとの技術交流会を開催し、量子線を始めとした最先端技術やフュージョンエネルギー技術を会員のビジネスチャンスにするための取り組みを進め、地域産業の活性化に繋げていきたい」との挨拶をいただきました。

その後報告に移り、事務局 定岡から昨年度の活動報告や実績統計の説明の後、本年度も引き続き会員訪問やマッチングイベントを通して量子線の利活用支援を図るため、ご支援とご協力をお願いしました。

続いて、中性子を活用した事例「オイル攪拌解析精度向上のための可視化測定の取り組み」の報告が日立建機 吉野技師からありました。油圧ショベルの減速機内部の油の潤滑性を把握するためのJRR-3での透過像動画撮像実験で、油掻上げと旋回減速機の油の飛散挙動を動的に把握することに成功。解析精度の向上のための指針を得ることができました。今後は可視化結果と解析結果の比較・精度向上が課題とのことです。

次に、「科学とビジネスを紡ぎ、イノベーション競争力を強化するナノテラス/コアリション」と題して、光科学イノベーションセンター高田理事長よりご講演をいただきました。ナノテラスは、東北大学構内に官民地域パートナーシップにより設置された最新鋭で世界最高性能の3GeV高輝度放射光施設であり、企業、大学、国立研究所と連携し、次世代の電池、半導体、食品、バイオ等の幅広い分野で、“ナノ”の世界を“照らし”、脱炭素や気候変動といった社会課題の解決やものづくりに取り組んでいます。当協議会ではナノテラスの視察を計画中で、詳細は後ほどご案内いたします。



高田理事長



小林センター長



吉野技師



小泉教授

次に、J-PARCセンター 小林センター長より「J-PARCの近況報告」と題し、世界最先端の研究施設の概要や研究・技術チャレンジでの施設の活用方法などについて、最後に特別講演として、茨城大学・総合科学研究機構(CROSS)の小泉教授より「もう一つのビームライン「茨城県生命物質構造解析装置(iBIX)―今後の展開と地域技術の活用―」と題し、iBIX装置の高性能化として小角検出器の増設や中性子2次元検出器など独自開発内容について、それぞれご説明頂きました。

今回は会員等27社46名が参加し、発表・講演・研修とも活発な質疑応答があり、内容も好評でした。研修の今後のスケジュールはメルマガ等でご連絡しますので、是非ご参加をお願いします。